

かまくら環境白書の発行にあたって

本市は海や山、川があり、首都圏にありながら自然環境に恵まれた美しいまちです。中世、この地に武家政権が誕生してからは、伝統ある豊かな文化と多くの歴史遺産が育まれてきました。

昭和30年代、高度成長期になると、増え続ける都市部の人口を吸収するため、多くの山野が宅地開発されました。こうした潮流は本市も例外ではなく、鶴岡八幡宮の裏山にも開発の波が押し寄せました。このとき、開発を阻止するために多くの市民が立ち上がり、現在に残る豊かな自然環境が守られました。このわが国最初のナショナル・トラスト運動は、古都保存法制定のきっかけになったとも言われています。こうした市民による自主的行動は良き伝統として受け継がれ、市内では現在も多くの市民団体が環境保全のために活動しています。

しかしながら、近年環境問題はますます複雑化する傾向にあります。地球温暖化や廃棄物処理の問題に加え、国外からの大気汚染物質の流入や放射性物質の拡散など、新たな問題が浮上してきています。さらに将来のエネルギー源を何に求めるかという課題は未だ先行き不透明で、環境に及ぼす影響も極めて見えづらい状況にあります。

本市は、平成8年2月に第1期鎌倉市環境基本計画を策定して以来、良好な環境保全、より良い環境の創造をめざして市民、事業者、滞在者、行政が協働して取組みを推進してきました。その後も環境を取り巻く国際的、社会的動向などを踏まえた計画の見直しを行い、平成25年4月には、エネルギーや放射性物質についての取扱いを踏まえた「第2期鎌倉市環境基本計画改訂版一部改訂版」を策定しました。

この第2期鎌倉市環境基本計画改訂版一部改訂版は、計画期間を平成18年度から27年度までの10年間とし、地球規模での環境問題に対する取組みの重要性を認識し、持続可能な社会を構築していくために、すべての人が様々な場所で環境保全に向けた取組みを実践することの必要性を加えて15の目標を定めています。

かまくら環境白書は、鎌倉市環境基本計画に示された目標の進行状況を管理するため、主に前年度の実績等を踏まえその結果を公表するもので、今回で18回目の発行となります。

次世代につなぐ持続可能な社会の構築や刻々と変化する環境問題に対応するためには、さまざまな人々が身近な生活の環境保全に取り組み、地球環境の保全につなげていくことが重要です。

本書を通じて、皆様が環境への関心と理解を一層深めていただき、鎌倉の自然、文化などの環境保全のために具体的な行動をする上でお役立ていただければ幸いです。

平成26年3月

鎌倉市長 松尾 崇